

防災・減災のページ

第73回ワークショップ @東松島・赤井地区

むすび塾

海に近い同市大曲小で避難所運営に関わった大曲地域自主防災組織連絡協議会長の阿部邦男さん(72)。

震災直後、赤井市民センターのような取り組みはまれだった。

背景には、震災1年前に市内で上演された寸劇があった。地元演劇サークル「コロケ」が、女性の意見を生かした避難所運営の在り方を提言。脚本を担当した渡辺さん(68)が、避難所で女性が抱える不安を事前に学んでいた経験を生かし、劇を思い出し対応した。

震災直後、赤井市民センターのような取り組みはまれだった。

背景には、震災1年前に市内で上演された寸劇があった。地元演劇サークル「コロケ」が、女性の意見を生かした避難所運営の在り方を提言。脚本を担当した渡辺さん(68)が、避難所で女性が抱える不安を事前に学んでいた経験を生かし、劇を思い出し対応した。

女性視点でニーズ対応



部邦男さん(72)は「当時は、男女で協力する大切さを訴える声も多く、心体の性が女性の悩みに配慮する余裕がなかった」と振り返った。

参加した男性からは「周囲から分らないし、女も男のことが分らない」という声も聞かれた。互いに思いやることが大事だと強調した。

「むすび塾」は、仙台市宮城野区若切で今年3月に初めて開催された。今後も定期的に開催する。

■むすび塾に参加して



【参加して】震災後、避難所の小曲で1カ月間生活し運営も担った。衣食住の確保で懸命だったあの時、女性の暮らしやすさに配慮した避難所があったと知り驚いた。きめ細かく気配りする大切さも学んだ。平時から性別を超えた地域づくりを進めたい。大曲地域自主防災組織連絡協議会会長・阿部邦男さん(72)



【災害に備えて】女性を防災リーダーにすれば万全解決ではない。男性の理解と協力が欠かせない。女性も自ら声を上げないと、受け身では変わらない。目指すべきは、いざという時に男女も協力し合える地域。普段から交流が密になるように努めたい。柳北自治会会長・昆野美津子さん(59)



【災害に備えて】アレグリー対応のミルクを探したり赤ちゃんが夜泣きしたりと、震災時に母親にかかるストレスは大きく、精神的な影響は今でも残る。防災対策を考える意思決定機関にはまた女性が少くない。まずは男女双方の意見を反映できる場をつくる必要がある。主任児童委員・佐藤まき子さん(68)



【災害に備えて】川に近い地区の特性上、誰が非常時に集まれるかが分からず、事前に担当を割り振りしにくい。防災を議論するたびに女性の意見の必要性を感じている。避難訓練など人が集まる際に意見を聞き、いざという時に備えたい。南4区自主防災会会長・渋谷栄一さん(65)



【災害に備えて】市民の被災体験を聞き取り、記録に残す活動をしてい中で、避難所で女性たちが炊き出しなどに活躍した様子に聞き、女性の力を実感している。避難生活は個人で解決できない課題も多い。行政や住民が立場や性別を超えて協力する必要がある。東松島市図書館司書・菅原優子さん(57)



【女性と防災】女性ならではのアイデアや気配りは地域防災に不可欠だ。自治会役員を務めることで、より意見が反映されるのではないかと。コミュニケーション形成も大事。男女問わず多くの住民に、交流イベントや避難訓練に参加するよう呼び掛けた。赤井地区自主防災組織連絡協議会会長・宮崎哲士さん(62)



【災害に備えて】まずは女性の世界を広げるための社会基盤づくりが必要。それがなければ女性に力をつけてフレックシブルになる。男性の防災リーダーには聞く耳を持つてほしい。女性リーダーには視野を広く持つてほしい。足りない部分を互いに補つことが大事だと思う。奥松島公社 勤務・優子さん(57)



【女性と防災】「3・11」後の災害現場でも、避難所で不自由な思いをしている女性や災害弱者が報道される。弱者の代弁者になれるのが女性。男性には女性の意見をもっと聞いてほしい。女性も要するだけでなく率先して課題に取り組む姿勢を持ちたい。赤井市民センター事務次長・渡辺和恵さん(51)

避難所運営課題探る イコールネットと共催

河北新報社は11月21日、通算73回目の防災・減災ワークショップ「むすび塾」を東松島市赤井地区で開いた。「女性と防災をテーマにNPO法人イコールネット仙台(仙台市)と共催。東日本大震災直後の混乱期、女性の命と生活を守る防災に向け、女性の参画を進める方策を語り合った。

「仙台枠組」基に男女参画加速

女性と防災のテーマは、仙台市で2015年に開かれた国連防災世界会議でも議論となった。会議で採択された国際指針「仙台防災枠組」(15年)は、東日本大震災を教訓に、防災・減災の指導原則の一つに「女性と若者のリーダーシップ促進」を盛り込んだ。

人材育成や備蓄品に反映

13年に全面改定された地域防災計画も、基本方針に男女共同参画の視点を取り入れた。災害対策を明記。避難所、衣室やトイレ、洗濯物の干し場、授乳室の確保などに留意するよう求めている。

南部中心に浸水被害

東松島市赤井地区は市東部の住宅地と農地が混在する地域にあり、石巻市と接する。地区人口は約7600人(2014年4月現在)。市内8地区(矢本東、矢本西、大曲、赤井、大曲、小野、野崎、宮戸)の中で、市中心的な矢本西に多い。

「仙台防災枠組」を踏まえたプラン(仙台市の施策)

- 男女共同参画の視点に立った地域防災・復興まちづくり
 - 出前講座の実施
 - 女性のための研修会や交流会
 - 仙台市地域防災リーダーの養成
 - 女性の視点などに立った震災復興・防災対策に関する広報啓発
 - 女性のニーズを反映した避難所の運営体制の整備
 - 女性の視点などに配慮した災害用備蓄物資の整備
 - 大規模災害時における女性支援センターの運営に向けた体制の整備
 - 震災に関する調査の実施
- 防災・復興まちづくりにおける女性参画の重要性を国内外に継続的に発信
 - 防災・復興をテーマとしたシンポジウムの開催
 - 女性と防災をテーマとしたイベントの開催
 - 震災復興と男女共同参画をテーマにした広報誌の発行
 - 仙台市復興記録誌の発行・発信

■専門家から

「男性だけ」でも「女性だけ」でもなく、コミュニケーションを密にしておく大切さは、震災の経験もあって多くの人が気づいている。新編中越地震のある被災地では、地域の話し合いを開く時間を平日の昼にしたり。昔からの男性中心社会で夜や休日には設定していたのを改めた結果、女性も集まれるようになった。コミュニケーションづくりの工夫として参考にした。

東日本大震災を機に、男性だけの発想で災害を乗り越えるのは難しいとの理解が広まった。東松島市でも、地域防災を担う女性リーダーの養成に関心が高まっている。女性は、介護や育児などで高齢者や子どもら災害弱者と接する機会が多く、災害時、多様な立場に配慮する立場の女性には少ない。男性と比べて公的な場で目立つことを敬遠しがちだが、防災に限らず、地域づくりにも女性の力は欠かせない。自信と自覚を持つてもいい。自分と自覚を持つてもいい。自信と自覚を持つてもいい。自信と自覚を持つてもいい。

地域の会合平日昼でも

東松島市に限らず、復興らし始めているのだ。地域の輪からこぼれ落ちる人を巻き込んでほしい。地域をよくなる元々の住民と、知らない新住民と一緒に暮らさなければならない。



東松島市に限らず、復興らし始めているのだ。地域の輪からこぼれ落ちる人を巻き込んでほしい。地域をよくなる元々の住民と、知らない新住民と一緒に暮らさなければならない。



東松島市に限らず、復興らし始めているのだ。地域の輪からこぼれ落ちる人を巻き込んでほしい。地域をよくなる元々の住民と、知らない新住民と一緒に暮らさなければならない。

東日本大震災の体験を振り返り、専門家と共に防災の教訓や避難の課題を語り合ってみませんか。町内会や学校、職場など10人前後の小さな集まりが対象です。開催費用は無料。と語り合いを東松島市や宮城県大川町で開き、開催希望を受け付けています。連絡先 ます。

